

| | | | | |
|--|----------------------------------|----------|--------------|----------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 会計学 accounting | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 () | | 特になし |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 簿記Ⅰ・Ⅱ | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 簿記Ⅱ | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス | |
| 山崎好一 | 非常勤講師室 | 授業内で指示する | 授業中に指示します | |
| 授業の概要 | | | | |
| 初めて会計学を学ぶ人を対象に会計学の基本的用語と理論、および損益計算・貸借対照表の構造とその作り方を企業会計原則の項目の沿って学び、最後にキャッシュフロー計算書の構造について学ぶ。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①簿記により作成される決算書について、見方・読み方をできるようにする ②会社の実態を考察できるようにする ③社会人として、日常に使える会計知識を習得できるようにする | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 使用テキスト「会計学を学ぶ」を用いて講義を行う | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| 決算書のフレームワークとその考え方を学び、決算書全体の見方・読み方を習得し、結果として簿記の役割と機能を学んでビジネスにおける会計的思考が習得できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | シラバスの説明、簿記と会計はどのようにつながっているか | | | |
| 第2回目 | 会計の一般原則には何があるか | | | |
| 第3回目 | 貸借対照表の構造とその作り方（資産の種類と当座資産） | | | |
| 第4回目 | 貸借対照表の構造とその作り方（有価証券と棚卸資産） | | | |
| 第5回目 | 貸借対照表の構造とその作り方（有形固定資産） | | | |
| 第6回目 | 貸借対照表の構造とその作り方（無形固定資産・繰延資産・負債の部） | | | |

| | | |
|---|-------------------------------|--|
| 第7回目 | 貸借対照表の構造とその作り方（純資産の部） | |
| 第8回目 | 貸借対照表の読み方、小テスト | |
| 第9回目 | 損益計算書の作り方（売上高を計算する） | |
| 第10回目 | 損益計算書の作り方（売上原価を計算する） | |
| 第11回目 | 損益計算書の作り方（販売費及び一般管理費と儲けを計算する） | |
| 第12回目 | 損益計算書の読み方 | |
| 第13回目 | キャッシュフロー計算書の作り方 | |
| 第14回目 | 学習した会計学に関する理解度を確認するための試験 | |
| 第15回目 | 講義のまとめ（講義全体を振り返る） | |
| | | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 30% | 無遅刻・無欠席で授業に参加し、分からないことがあれば積極的に質問すること。 |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | 10% | 5つの専門用語を簡潔に一貫性を以て解答すること。 |
| 試験 | 60% | 設問の主旨を理解して、必要な専門用語を使用しながら論理的一貫性を以て解答すること |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | |
| 「会計学を学ぶ」（税務経理協会） | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| ①グループワークに積極的に参加する ②分かりにくい点があれば積極的に質問する ③携帯電話の使用（送受信・その他の使用）は禁止（緊急の場合は講師に申し出ること） | | |